

京都大學經濟學會

經濟論叢

第六十五卷 第二・三號

協同組合の本質……………山崎武雄

社會政策論争史の一齣(二完)……………岸本英太郎

消費者の貨幣需要……………伊藤史郎

宇治茶業農村の生態……………山岡亮一

京大經濟學部創立三十周年記念會記事

昭和二十五年三月

東京經濟學部
創立三十周年 記念會 記事

大正八年に法學部から分離獨立したわが經濟學部は、昨二十年五月二十八日を以て滿三十年の記念すべき日を迎えた。この日を期して、それにふさわしい色々な事業を計畫し、準備を進めたが、新制大學の入學試験その他の事情のため、これを延期し、十一月の好季節を選んで、次のような行事を行い、事業を計畫した。

- 一、記念式典
- 二、記念講演會
- 三、勤續職員表彰式
- 四、研究報告會
- 五、運動會
- 六、記念論文集の發行
- 七、經濟研究所設置計畫

一、記念式典

十一日午前十時半、本學大講堂において、學の内外から多數來賓の臨席を仰いで、左の順序で祝賀式を舉行し、特に來賓を代表して、本學々長島養利三郎博士、本學名譽教授・京都市長神戸正雄博士から感銘の深い祝辭を受けた。

- 一、開會の辭
- 一、學部長式辭
- 一、來賓代表祝辭
- 一、學生代表祝辭
- 一、委員長挨拶
- 一、閉會の辭

終つて、別室に一獻の祝盃をあげ、法學部長瀧川幸辰博士の發聲で、經濟學部の萬歳を唱えて散會。

二、記念講演會

同日午後一時から第三教室で、次の順序で公開講演會を開いたが、立錫の餘地なき盛況、現時の最も興味深い二つの問題に關する矢内原・近藤兩先生の蘊蓄に熱心に耳を傾けた。遠路來學、この會のために御講演下さつた兩先生に對し、改めて深厚なる謝意を表す。

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| 開會の辭 | 本學部教授 | 靜田 均氏 |
| 社會保障の根本問題 | 大阪商大教授 | 近藤 文二氏 |
| 植民政策と國際平和 | 東京大學教授 | 矢内原忠雄氏 |
| 閉會の辭 | 本學部教授 | 松井 清氏 |

三、勤續職員表彰式

本學部事務關係の職員で滿十年以上勤續し、その職務に精勵せられた左の五氏に對し、表彰狀を呈し記念品を贈つてその功をたゝえた。

- | | | |
|---------|-----|---------|
| 勤續 二十六年 | 雇 | 松尾 哲彦氏 |
| 二十一年一ヶ月 | 教官兼 | 熊治良左衛門氏 |
| 十九年四ヶ月 | 事務官 | 三浦貴美子氏 |
| 十年七ヶ月 | 事務官 | 福田伊都氏 |
| 十年六ヶ月 | 事務官 | 森村三郎氏 |

四、研究報告會

十二日午前九時から第十教室において開催。かつて毎年本學

部の創立記念日を期して、専門學校以上の學校で研究に従事して居られる本學部出身者の參集を求め、研究報告會を開いたが、戰時中諸般の事情で一時中絶していた。今回三十周年記念式を行うに當り、いさゝか趣旨を改めて再開したところ、期待した以上に多數各位の參集を得て、復活第一回を極めて盛大且つ有意義に開催することができた。研究報告は左の如くである。

信用と資本蓄積

—信用理論の基本的視點について—

滋賀大學教授 石田 興平氏

社會政策の論理的構造について

本學部助教 岸本英太郎氏

觀光と國民經濟

大分大學教授 田中 喜一氏

ノルマについて

滋賀大學教授 山本安次郎氏

工業分布論の若干問題

大阪經大教授 菊田 太郎氏

終つて工學部會議室で懇話茶話會を開き、參會者一人残らず自己紹介をかねて抱負や希望を述べ、和氣瀧々のうちに灯點する會を閉じた。なお學外からの參會者に對し、熱心な御協力を感謝すると共に、今後この報告會を一層盛大にして下さるようお願いしたい。

左に研究報告の要旨を掲げる。

信用と資本蓄積

—信用理論の基本的視點について—

滋賀大學經濟學部

石 田 興 平

報告の論點は、ウイタセルの線に沿うて展開された諸學說を資本理論の立場から、而も單に利子論的な資本理論でなく、經濟の根底をなす再生産に着眼した發展理論的資本理論の立場から考え直すその端緒を探求せんとする所に置かれた。而して、

この點に關して、先ずシナムペーターの「經濟發展の理論」に學ぶべき出發點を求め、更にシナムペーターの理論とウイタセル線上の諸理論との架橋の問題をとりあげた中山博士の「發展過程の均衡分析」に關照して報告を進めた。先ずシナムペーターの發展即ち新結合乃至循環軌道の變更を再生産軌道の變更と見直すことによつて再生産的把握の通路を開き、次にハイエタの生産構造の資本理論への結びつきに言及して、シナムペーターの新結合が資本構成の變動及びつて資本蓄積論の重要な理論内容をなすことを指摘した。次にシナムペーターは發展として新結合のみを強調するの餘り、循環との内的關係を考えなかつた。この點、中山博士によつて、「發展を含む循環」の問題がとりあげられた學問的意義に注意を向け、資本蓄積の現實過程は、寧ろシナムペーターが新結合として表現した資本構成の變化とその循環への消化としての量的擴張との相互媒介過程に存することを指摘し、かゝる資本蓄積の過程にこそ信用の問題を把握する眞實の地盤があることを強調して、更に報告者の積極的見解を數枚の圖表を以て開陳した。この積極的理論の展開は、信用と資本蓄積過程の均衡分析を示す圖式を中心に進められたが、その中に於て、とくに、ハイエタの生産構造圖式及びマルクスの再生産表式は、高度化された所の或は擴張された所の再生産の均衡的構造を示すにとどまり、依然靜態的分析たる性格を脱して居ず、それ自體として、信用乃至金融を理論的に導入し得ないことを指摘し、この擴大され或は高度化された再生産均衡水準への推移過程に分析の視角を向けることにより、即ち資本蓄積論を單に擴大再生産の均衡條件の問題にするにとどめず寧ろその推移過程に重點をおき、これを資本蓄積過程乃至發展過程として理論の構成骨をする途を開く事によつて信用乃至金

職の問題が眞に再生産論的にとらえられる途を開き更にウイグセル線上の短期的な理論を導入しうる途を開きうることを強調した。

社會政策の論理的構造について

岸本 英 太 郎

社會政策の本質を道義論や政治論をもつて把握しようとした従来の社會政策論は、社會政策の概念的な恣意的な解釋論に外ならなかつたのである。社會政策は、労働条件の維持改善に保つる國家の政策である。商品としての労働力の賣買に於けるいかに相對的に見える條件 \parallel 労働条件 \parallel 労働力の交換價值は一體いかにして決定され、いかなる法則のもとに變動するか。このことが明らかとなつてはじめて労働条件の維持改善に係わる國家の政策としての社會政策は理解されうるのである。従つて社會政策論の出發點は商品としての労働力であり、その價値の把握である(労働力の價値規定)。

ところで労働力の價値は、それが生ける且つ社會的な人間としての労働者と結合してのみ存在しようという特殊性の故に、他の一般商品とは異つた独自の性格をもつている。即ち労働力の價値は労働者及びその家族(何となれば労働者は自然的な消耗を免れ得ないから)の肉體を維持するに必要な生活必需品の價値ばかりではなく、社會的・道徳的な生活に必要な生活品の價値を含んでいる。この労働力の社會的な要素は伸縮性に富んでいるが、とにかく現實の労働条件はこの労働力價値の二つの限度の間を變動するものである。

扱て機械産業時代の資本の蓄積は、資本の有機的構成を高度化するが、この過程は資本の蓄積に適應する産業豫備軍を生産するものである。産業豫備軍は現役労働者軍の労働条件を必然

的に悪化させる(労働強化の著しい増進)。かくて資本の蓄積は貧困を生産し、労働者階級の狀態を悪化させる。労働力價値の社會的な要素を削減するばかりでなく、多くの労働者の労働条件を労働力の價値以下に、更に進んでは労働力の生理的要素の内容をも悪化させるのである。生産力の増大 \parallel 資本蓄積の必然性が剩餘價値の生産にある資本制生産様式にあつては、資本の蓄積に應ずる労働条件悪化 \parallel 貧困の蓄積は一般的絕對的な法則である。

社會政策は實にかゝる労働条件の必然的な悪化を阻止・緩和するものに外ならない。だが社會政策と雖も資本蓄積の敵對的な法則の貫徹を阻止する事は出来ない。社會政策にもかゝらずこの法則 \parallel 労働者階級の絕對的窮乏化法則は自己貫徹するのである。社會政策は労働力價値の社會的要素の低下傾向を阻止緩和し、或は價値以下への烈しい低下を緩和するものである。かくて社會政策の内容は労働力の保全であり、本質は労働力搾取の消極的な表章であるといふことが出来るであらう。社會政策が賃銀や條件の標準度を決定する場合、その本質は労働力の標準的搾取であり、賃銀や労働条件の價値以下への烈しい低下を緩和する場合、その本質は労働力の原生的搾取の抑制策である。

然らば社會政策の成立を必然化するものは何か。それは階級闘争である。資本の運動は資本の労働力搾取の強化に外ならず労働者階級はこの搾取の強化 \parallel 労働者階級の窮乏化傾向と闘つてゐるのである。従つて現實の労働条件で階級闘争 \parallel 労資の力關係に媒介されないものなどそもそもあり得ないのである。労働条件の維持・改善に係わる國家の政策としての社會政策が階級闘争によつてのみ成立し得ることは今更論するまでもない。

觀光と國民經濟

田中喜一

こゝである。社會政策は階級闘争の必然的な産物である。

國際觀光の現象は國民經濟が專制時代から轉じて自由時代に入り世界經濟への發展が見られるに及んで、顯著なる發達を示すに至つたものである。それは交通技術の革新とも密接に結び付いているが、常時的には經濟の前進運動により促進される所大なる事實に注意が拂われねばならない。何となれば觀光欲求は生活上基本的必須のものとして充たされるものではなく、多分に附加的任意の性質を有するからである。従つて經濟の成長が續く限り、需要種目の多様化は有形財より無形財への欲求度を加え、觀光往來に對する志向を高めることとなる。又生産技術の進歩により單位生産力の増加は勤務時間の短縮によつて餘暇を生じ、これが個人所得の増加と相俟つて觀光欲求の充足を容易ならしめるものである。併しながら政治的作用は屢々この經濟前進運動を歪曲するのであつて、かの世界恐慌以後統制時代に移るに及び、國際觀光も貿易統制の枠内に於て制約せられる事象も生じたのである。それが今次大戰を経て世界の各部に再び自由經濟の光が認められると共に、その圈内に於て觀光往來の機運は頓に高まりつゝある。

この時機に於て經濟的に持たざる我國は戰後の經濟復興を圖るに當り、觀光事業を國策として採上げんとされているが、その經濟的目標としては第一に國際賃借の改善が擧げられる。併し現實的には外貨獲得はそれ程多くを期し得るものではなく、これだけを唯一の目安として觀光の効果が判斷されるべきではない。それ以外に海外商品市場の發展、外資導入による産業の振興など間接的效果についても考慮されねばならない。かくの如

く過渡期に於ては種々の見地より觀光政策を運用すると共に、觀光企業の投機的活動を統制し、國民經濟全體との關聯に於てその健全なる發達を圖ることが肝要である。これがためには國家指導の下に緊密なる組織を作り、綜合的活動によつて經濟的にその機能發揮を期せねばならない。

ノルマに就いて

山本安次郎

右についての報告の要點は次の如くである。

(一) 問題——資本主義經營に於ける勞働合理化問題は私的所有制の故に直ちに批判せられる。然るに社會主義經營に於ては社會的所有制の故に合理化は却つて一の倫理として要求せられる。ノルマは社會主義の一形態たるソ同盟の經營に於ける勞働合理化の基本問題であるが、これを通してソ同盟に於ける勞働の理想と現實との距離を考えたい。

(二) ソ同盟とノルマ——(1)勞働生産性の向上はソ同盟にとり死活問題であり、計畫經濟もこれを狙い、その成績は凡ゆる機會に誇示せられる。しかもそれが社會主義勞働の理念として要請せられる自發性によるとせられるが、實際には寧ろ政治的組織力による強制ノルマの強要に基く。(2)ソ同盟の經營組織の特色は單一責任制と獨立採算制であつて、それは本來經營合理性の要求に基く獨特のものながら、明かに黨の政治力の滲透による強制的性格をもつ。(3)經營勞働はノルマを中心組織せられ、ノルマは一勞働日の勞働基準量であり、形式的にはともかく、實質的には計畫經濟遂行の國家意志を意味し、凡ゆるインセンティブによつてその實現を強要せられる。ノルマは社會主義勞働の自發性よりは國家的必要に基く強制勞働性を示す。

(三) ノルマの形態とソ同盟のノルマ——(1)ノルマの思想はテ-

ラーのタスクの思想であり、レーニンが既にそのソ同盟に對する重要性を指摘した。(2)ノルマは合理的労働管理の基本原理であるが、それには種々の形態がある。(3)ソ同盟のノルマはその歴史的現實の故には種々政治的ノルマたる性格を示し、労働の生理的限界に達するほどの高さまで強要し得る。國際對立が消滅しない限り、政治的ノルマは運命的である。ソ同盟に於ても社會主義労働の理想と現實とは大きな距離がある。ソ同盟として労働者の樂園ではない。政治的ノルマは現實には強制労働の組織を示す。

(四) 労働生産性の向上とソ同盟經濟體制の優位性——これは明かに無條件には肯定せられない。併し無理を強行し得る驚くべき強さは認めねばならない。が、そこにこそ却つて深く考へべき人生の問題がある。

工業分布論の若干問題專言

菊田 太郎

日本の工業は、その分布状態から見て、(一)京濱・中京・阪神・北九州の四中心地域に集積した工業。(二)兩毛・北陸・泉州・播州の襍業地、瀬戸・多治見の陶業地等、特殊な部門の集積した地域に於ける工業。(三)廣く存在するが、立地数の少い工業。(四)人口分布と略々平行して分布する遍在工業、この四種に分れる。

この内、(四)は暫く置き、他は、(A)支那事變・世界戰爭の當時、(B)終戦後の混亂期、(C)本昭和二十四年からの經濟正常化の時期に於て、各種工業の相對的の變化、原料の轉換、原料・製品の價格の定まり方、労働力の需給状態並に組織化の程度等により、それぞれ異なる動きを示し、相對的地位を變じた。即ち、總括的に見て、(A)(B)では、供給不足・生産

費補償主義から殆んど見られなかつた立地の合理化が、(C)に入つて漸く行われようとし、又、各條件の影響としては、(A)に於て、機械工業の比重増大による(一)の増加、原料・製品價格プールの制による(二)の増加、平和産業なるが爲の企業整備及び勞務配置統制による(三)の減少が、(B)に於ては、殘存原料の關係から、(一)の復活も多かつたとは云え、無職災、労働者の生活條件、その組織の未熟から、(二)(三)の比率増大が顯著であつた。所が、(C)に入るや、生産費の低廉な大經營への集中生産、労働條件の均等化等から、(一)の地位向上が著しからんとするもの如くである。

五、運動會

十三日の日曜日、同好會の主催で、舊三高グラウンドに於いて運動會を開き、學部を擧げて一日を楽しく過せうとしたが、生憎雨に妨げられて、半ばにして中止しなければならなくなつたことは、誠に遺憾であつた。併し同好會では別に映畫會・音楽會・ダンスパーティーなどを催し、いずれも盛會であつた。

六、記念論文集

三十周年記念論文集の發行を計畫し、「經濟論壇」第六十四卷第一・二・三合併號及び四・五・六合併號の二冊を以てこれに充てた。

七、經濟研究所設置計畫

國內的にも世界的にも、經濟問題は愈々重大となり、多數の優秀な研究員を擁する研究所を持つことは、それ自身として、また學部の充實を期する上にも、重要な事柄となつた。こゝに

おいて本學部では、新制の大學及び大學院の將來をも考慮に入れて、經濟研究所の附設を計畫じ、三十周年記念事業の一つとして、その實現に邁進することになつた。學の内外にわたり、

多數各位の御理解と御支援とを切にお願ひする次第である。

(記念式典委員長、堀江保藏記)